

# 踏み跡 <My Mountains>

ユニシス山中湖マラソンに参加の翌日、「せっかくここまで来たのにこのまま帰るのは勿体ない」と思うようになった。富士山周辺の山を少しずつでも片づけてみよう。  
 そんな訳で、昨年職場の旅行の後で歩いてきた天子山塊の続きを歩いてみることにした。

昭和62年4月19日  
 天気は晴れ、絶好の登山日和。マラソン大会は朝食後に解散。近くのコンビニで食糧を調達して、9時に出発。富士山の反対側にある朝霧高原をめざして国道138号線を富士吉田へ、そして139号線を一路西へ。



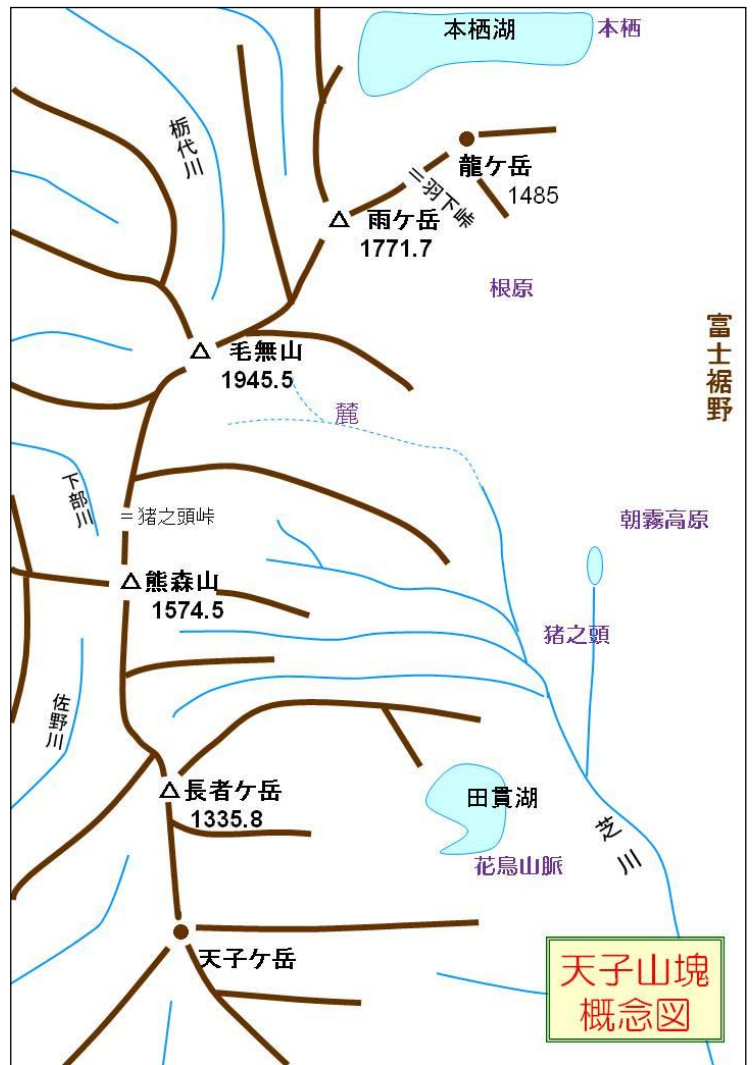
朝霧高原の西側に威嚇するように立つ毛無山の山懐にある(その名のと通りの)麓という集落に10時に到着。林道のどんづまりに車を止めて身支度。  
 10時18分に出発。  
 海拔890mの登山口から1945mの頂上まで、「じかに山肌に取り付いて一気に登り上げる」という雰囲気のかつい登り。小尾根から急峻な谷を見下ろすと、向こう側に三段の立派な滝「不動の滝」が見える。望遠レンズで迫って見た。(左写真)

海拔1500m付近だろうか、大きな崩落の上に出た。11時59分、昼飯時には頂上に到達できそうもない。  
 下から登ってくると、杉林で始まり雑木林に変わる。そいて笹に覆われたかと思うと馬酔木が待ち構えている。そして最後は灌木。植物の垂直分布が面白い。富士山は薄らと存在だけを示している程度で、ちょっと期待外れ。

海拔1700m地点だろうか、平坦な草地に出たので昼食をとることにした。12時10分。

豚汁カップにお湯を注いで、山中湖湖畔のコンビニのおにぎり。昼食と小休止の後、12時44分荷物を置いてカメラ岳を持って山頂へ。

毛無山(1945m)13時28分。マイナーな山の割に立派な標識が立っていて驚いた。その名の通りの禿げた頂上だが、西側の展望がないのが玉に傷、富士山だけを楽しもうという管理者の心が感じられる。三角点の移設工事中だろうか、旧三角点と新三角点があるの面白い。(右上の写真)



## 踏 み 跡 <My Mountains>

見通しのきく朝霧高原側の谷間を見下ろすと、箱庭のように下の集落が鮮やかに見える。何より、ここまで登ってきた急峻さと高度感が生々しく迫力がある。(前頁右下の写真)

13時38分出発、元のルートに戻る。草原で荷物をピックアップして、麓集落に15時に帰着。

登山口の脇に、山の水を集落に配水する水路があった。とても冷たくきれいで美味しいので、飲んだだけでは満足せず、お土産に2ℓいただいて帰った。

帰路は精進湖トンネル経由で右左口(うばぐち)を抜けて、甲府南インターから中央高速道路に入った。

この山は、1945m程度の山にしては随分ボリュームのある登りだった。高度差1000mの急登は存分に苦しませてくれた。これで白雪の大富士が見られれば文句なしだったが……。つまり冬に登った方がよかったのかもしれない。



(蛇足の画像：今朝、山中湖からの富士はこんなにきれいだった)  
以上